

本郷中央地区 まちづくりは人づくり 協働福祉講座



発行人 会長 亀澤 弘

3月13日、13時30分
から本郷地区センター
2F大集会室にて、当
地区支えあい連絡会主
催のもと、横浜地域人
材開発協会代表の斎藤
文人氏をコメンテータ
ーとしてお招きし、協
働福祉フォーラムが行
われました。
本フォーラムは、当地

区内の各自治会が行っている
顕著な福祉活動に関する情
報を皆で共有し、今後の福祉
活動に活用して頂くことを
目的としております。
各自治会のご協力を頂き、
会場を埋め尽くすほどの参
加者で、盛況でした。

「本郷中央地区自治会 訪問」からの報告

最初に、当地区社協会長 亀
澤弘氏からご挨拶があり、桂
台地域ケアプラザ所長 石塚
淳氏から自治会訪問活動を
通じてまとめた課題7つの



紹介がありました。この活動を
通じて得た自治会の福祉活
動の情報を地域の皆さんに
伝える、要援護者の把握、
安否確認の共有する最も
有効な手段としてこのフォ
ーラムを行って、自治会の
保安部で先行して取り組
んでいた非常時のマニユ
アルが活用できるか検討。
この課題のひとつ、安心、
安全な街づくりでは、「防
犯には顔の見える関係が
有効で、あいさつ運動で、
6年間盗難のない街も出
現している」と。買物が
困難な高齢者への対応。
元気な高齢者への支援と
いう課題では、あおぞら
市

課題には、歩いていける
距離にサロンを、茶話会
ではパソコンやマージヤ
ンなど男性の集まる工夫
も。サロンの中からサー
クルが7つも生まれた話
題など。
子ども会の運営に関す
る課題には、自治会同士
が連携し、合同で子ども
会を実施したり、お父さ
んの力を結集するなどの
方法があるなどの紹介が
ありました。

本郷中央地区 地域福祉保健 計画について

続いて、栄区福祉保健センター
福祉保健課 係長 榎本良平氏より
栄区の地域福祉を取り巻く状況、
地域で暮らしていく中での思い、
地域福祉保健計画を策定する趣旨
などについてお話がありました。
また、「身近な地域での健康づく
り・生きがいづくりや、災害時に
助け合えるまちづくりなどにつ
いて、地域と行政が連携する取
り組みなどを紹介していただきま
した。
第2期栄区地域福祉保健計画
については、7つの基本計画を定
めたことや、それぞれについて、
これまでの取り組み状況、第2期
計画での取り組み、平成22年度ま
での展開などを示されました。
自治会・町内会での取り組みで
は、役員改選により活動が終わ
らないように、自治会内で別組
織を立ち上げたという話があり
ました。

他団体・企業との 協働事業

湘南桂台自治会

福祉活動の取り組みの最初の事例として、**会長の城戸謙治氏**から企業と地域の協力によるミセ(店) コンヤ、三世交代サロンのお話がありました。

当自治会のプロフィールや活動内容、イベント等の紹介の後、地域内にふらっと立ち寄れる場所が欲しいという声を実現した「サロン・ぷらっとオアシス」の紹介がありました。



このサロンは、会場を桂台ケアプラザとし、湘南桂台自治会福祉部、桂山クラブ福祉活動部、グループ桂台が中心となつて共同企画・運営。既に18回開かれており、毎回40〜60名の方が参加。いろいろな楽器の演奏、コーラスやダンス、マジックなど毎回違ったゲストが披露する様々なパフォーマンスを楽しめるサロン。引きこもり防止を狙い、自宅にいては味わえない、わくわくする体験が多く用意されているとの話。

次に、地域活性化のため、地域唯一のスーパー・イトーヨーカドーと協働し、ミセコンを始めた話がありました。これは互いに支えあうことで、住民は生活の安定を、イトーヨーカドーは経営の安定を目指す趣旨です。平成20年12月から始めたものでイトーヨーカドーの2階で毎月1回開催し、地域の音楽家の出演と地域の芸達者な人たちの発表の場として定着。地域活性化の一助として更に発展させるようにしたいとのこと。

買ひもの難民と呼ばれて

団地住民の協力和工夫

公田町団地自治会

二つ目の事例として、**会長の大野省治氏**からNPO法人「お互いさまねっと公田町団地」についてお話がありました。

急速な高齢化社会を迎えた団地が首都圏の他の集合住宅と同じように買ひ物に不自由な居住地となり、「買ひもの難民」というショッキングな見出しで新聞報道されたことにより、これがきっかけとなり立ち上がったとのこと。

この法人の立ち上げには、住民の積極的な協力は勿論、横浜市と都市機構神奈川支社との間に設けられた協議会の支援、自治会上部団体の全国・神奈川の自治会等の支援があり、成功したとのことでした。

お互いさまねっととは、独居者と顔を合わせ声をかけ、励ましあって部屋から出てくるその人数を増やすことが目標。一人暮らしの高齢者が孤立死するというのが大きな狙いでもあ

るようです。お互いさまねっとは、公田町団地の中に建設中の愛称「いこい」という名称で呼ばれる建物で運営、活動拠点となるとのこと。この法人はオープン体制をとっており、団地居住者は勿論、近隣の皆様にも門戸を開き、入会とご利用を呼び掛けるとのこと。4月からオープン予定で、メニューはカレーライス、うどん、ラーメンなどの軽食を提供、その他のメニューは検討中とのこと。談話の席には紅茶、コーヒー等の提供も計画中。

また、幼児のためのスペースを考えたり、高齢者のためにマッサージも予定したり、居住者の見守りセンサー取り付けも予定されているとのことでした。

特定非営利活動法人「お互いさまねっと公田町団地」

理事長 大野省治

要援護者

支援システム作り

フローラ桂台自治会

三つ目の事例として、**会長の細田利明氏**から要援護者支援システム作りについてお話がありました。以下はその概要です。詳細はフローラ桂台自治会にお問い合わせください。

★最初の取り組み

このシステムを作るにあたり、進めていくストーリー(骨子)を作つてこれによつたこと。検討するに当たり自治会活動と並行すると自治会活動に支障をきたすため、一般公募を行つて有志を募つたこと。検討会では議事録を作つて議事の進行が後戻りしないようにしたこと。検討会メンバー全員が誓約書を提出して要援護者の機密保持を行ったことなどがポイントとのこと。

次ページ上段へ続く

★検討手順

● 町内の要援護者の実態確認
(実態確認は手上げ方式)

● 要援護者の支援に必要な情報を家庭訪問により聞き取り、これを基に一覧表作成
(聞き取り内容を統一するため「聞き取りカード」による)

● 要援護者の支援区分を決め、仮の支援カードを作成

● 支援者の一般公募を行い、支援者に活動の内容を説明。

● 日常支援と災害時の支援に区分し、日常支援者の割り振り

● 要援護者と支援者の結びつけ

● 「支援カード」完成

● 「支援カード」は要援護者と支援者、本部が各々持つて災害時に活用する。

★要援護者支援システム

メンテナンス

● 要援護者支援システム保全マニュアルの作成

● 要援護者支援センターの設置

● 年一回の支援訓練の実施(防災訓練と並行)

事例発表の後、斎藤氏から感想と本フォーラムに対する講評がありました。

公田団地のあおぞら市場と湘南桂台のサロンは高齢者の引きこもり防止効果大と評価。支援システムについて手を上げない人をどうするかと問題を提起されたことや、訪問には大人だけでなく、子どもも訪問させて、ドアを開けさせることも考えたらとの話は、今後の訪問活動で参考になりそう。

新しい地域経営の形と評価されたサロン「いこい」は、サービスを法人化したのが良いと評価され、コミュニティ経営の在り方のモデルとして注目と。

人は自分に関心のないものには協力しないので、自分のやりたいことで地域に貢献させるのが良く、いろんなグループを作らせることの重要性を強調。

最後に、栄区役所福祉保健センター担当部長 吉川義晴氏と本中連会長の野村政晴氏から平成 22 年は区と栄区社協の福祉保健計画を同じ方向を向くように調整・確立しアクションを起こしたいとのお話がありました。また、本日の会議は内容が良く、ここにいる人だけで聴くにはもったいない会議だったと。

野外を楽しもう!

本郷中央地区の青少年指導員が中心となり公田町中央公園で子供達に野外活動・体験学習の機会を提供している「ユートピア本郷の会」、ゲートボールを通して子供からお年寄りまでの三世代交流を図っている「リレーションズ栄」、本郷小学校の体育館を借りて青少年の健全な交流・発汗の場として提供している「フリースクエア」の3団体の共催により、1月23日に公田町中央公園で「野外を楽しもう!」が開催されました。



ゲートボールのストラックアウトを楽しんだり、竹の代わりにプラスチック板で簡単にできるプラトンボで遊び、昼食にはパン生地を竹に巻きつけ自分で焼いて食べるツイストパンと豚汁でお腹を一杯にして、寒い時期でしたが野外で元気に楽しい一日を過ごしました。

前述の3団体はそれぞれ「栄区みんなが主役のまちづくり事業」に参加していますが、お互いに横の繋がりを深めることよって、地域の人達の交流・活性化が促進されます。今回は初めての試みでしたが、次はもっと多くの団体と共催して、子供からお年寄りまで地域の人々の輪を広げていきたいと思っています。

(青少年指導員 橋本哲芳)

特志賛助会員

☆特志賛助会員(個人賛助会員)として、次の方にご加入頂きました。

- 高松 知光様
- 長谷 芳江様

本郷中央地区社会福祉協議会では地域住民のだれもが心豊かに住み、働き、学べるようお互いに協力し合う住民活動の推進をしております。

福祉の充実を図るため、是非とも皆様のご支援、ご協力が必要としております。どうぞ社会福祉協議会の趣旨をご理解頂き、一人でも多くの皆様に特志賛助会員にご加入頂きたくお願いいたします。なお、会員の受付は通年で随時、行っております。

◇賛助会員(年会費)

- 一口 一、000円
- (二口以上お願います)

ご連絡いただいた方には、本協議会役員および民生委員・児童委員などの関係者が集金にお伺いいたします。詳しくは左記へお問い合わせください。

本郷中央地区社会福祉協議会事務局 木村知恵子

☎ (892) 0197

おやこのひろばに遊びにおいで！

社会福祉法人 地域サポート虹 OYAKO CLUB チューリップ

「OYAKO CLUB チューリップ おやこひろば」は、本郷台駅前の横浜銀行の 2 階にあり、月曜日～金曜日の午前 10 時～午後 3 時まで、乳幼児が保護者と一緒に遊びに来るスペースです。天候や曜日で差はありますが、平均すると一日に約 20 組の乳幼児と保護者が遊びに来てくれます。

ひろばでは、おもちゃで遊んだり、おしゃべりしたりして自由に過ごすことができます。常に 2～3 人のスタッフがいていっしょにおしゃべりしたり遊んだりしながら見守ります。お昼前には手遊びと絵本の読み聞かせをする時間があり、その後昼食を持ってきた方はランチルームで食事をすることもできます。

最近ママと子どもだけでなく、おじいちゃん、おばあちゃんとお孫さんで足を運んで下さる姿もよく見られます。

毎月第 1 土曜日には場所を移して、桂町にある OYAKO CLUB チューリップの保育室で「土曜ひろば」を開催しています。午前 10 時半～午後 2 時半まで、アットホームの雰囲気の中、のんびりとした時間が過ごせます。土曜日なので、パパや平日は働いているママも遊びに来てくれます。いつもは一時預かりをしている保育室ですので見学を兼ねて遊びに来ていただくことも歓迎です！

一人で子育てをするのは大変ですが、ひろばを通じて子育てする仲間ができるときっと笑顔になれます。

“一緒に遊ぼう！一緒に話そう！一緒に笑おう！”

皆さまお気軽にお立ち寄りください。

【おやこのひろば】利用料：1 組 100 円 問合せ：おやこのひろば ☎ 892-1030

土曜ひろば・保育室 ☎ 894-6262



喫茶店「ぷらさんぬ」の全景

平成 19 年 4 月より開所したサンライズは、今年で 4 年目の施設です。障害者自立支援法では地域活動支援センター（精神障がい者作業所型）という名称の施設で、現在 37 名の登録で一日 10 ～ 20 名の方が通っています。来所する方々は、生活リズムを整える・就労準備・体力づくり・対人関係を学ぶ・集中力をつける・デイケアからのステップアップ・工賃収入などの目的で通っています。

サンライズを
ご存知ですか
NPO 法人 みちくさみち
地域活動センター
サンライズ



「ぷらさんぬ」の店内風景

サンライズでは、カレー作りやポスティング（チラシ配布）、母子手帳用のしおり作成、タオル折り、麻ひもを使った手芸品作り、メッセージカード作りなどを作業内容として活動しています。また、区民まつりをはじめとするイベント時には栄区と縁の深い長野県栄村の商品を販売することもあります。

◆ 編集後記 ◆
本号は、当地区内の各自治会が、地域で抱えている課題にどのように取り組んでいるかを特集でお知らせしました。福祉の課題はそれぞれの地域によって異なりますが、参考になる点が多々ありますので、それぞれの自治会に適用できるように汲み取って頂きたいと思えます。
(編集委員一同)

いて 3 分ほどの距離です。で、これからもご愛顧のほどよろしく願います。
「ぷらさんぬ」では、サンライズで以前からつくっているカレーやかつら工房のパンを販売しています。ここでは地域通貨イタッチも使え、店内で召し上がることもできますので近くにお越しの際はぜひご来店ください。

- 編集委員
- 金子 翠
 - 木村 知恵子
 - 前田 万里子
 - 柳本 佳子
 - 星 明男